

GWU Update 2017年4月19日号

JAUW「政治分野の男女共同参画推進法案」の早期成立を求める集会に参加

日本で女性が初めて参政権を行使した衆議院選挙から71年目の4月10日、全国の女性団体から約160名が参加し、衆議院議員会館を中心に国会周辺で集会を開き、選挙で候補者を男女半々にすることを目指す議員立法の早期成立を訴えた。JAUW（大学女性協会）は、主催の「Qの会」の栄えある10の主要団体のひとつとして招待参加し、鷺見八重子会長が代表挨拶、牧島悠美子副会長、山下いづみ CIR 他2名が出席、他の「Qの会」メンバーらとともに、各政党へ法案の今国会での成立を改めて求める要望書を提出した。この5名のJAUW 会員は、日本で意義あるこの機会に参画し、全国的運動の推進へ大きな役割を果たした。

GWU Update 2017年4月5日号

アメリカ協会が性暴力に関するウェブ討論会を開催

WG-USA（米国大卒女性＝アメリカのGWU加盟団体）が開いたウェブ討論会において、性暴力（GBV）を永続化させる社会規範と慣習には成人男性も男児も反対の声をあげる必要があること、また彼らの参画を確かにする方法について3人の男性、Laxman Belbase, Qasir Rafiq, Natko Gereš が論じた。そこでは、男性と少年を優遇し、女性と女児を抑圧する体制的・文化的慣習の改善が不可欠であると強調された。Rafiq は、何世代かのちにジェンダー平等という価値観が社会規範に織り込まれるように、幼いときから男児にジェンダー平等を教えるべきだと述べた。同じように、Belbase も「ライフサイクルアプローチ」をとるべきだと提案したが、男児の生涯を通じて女性を抑圧する文化的習慣に染まらないようにできるジェンダー平等教育の継続策については懸念を示した。最後に Gereš が社会的と同時に個人的規範について対処する必要性を強調し、体制的慣習への取り組みが大切とはいえ、どういう男性がもっともGBVを長引かせやすく、どういう女性がもっともGBVを体験しやすいかを理解することも重要だとした。

GWU は、WG-USA と論者たちにこの重要な討論会の実施に関して感謝と祝意

をおくる。